

主 題：主がまず愛してくださった 6

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章19節 -4：7-11-

ヨハネ第一の手紙4章をお開きください。前回、私たちはこの3章の終わりから、神の命令がどのようなものであるかを見て来ました。23節が教えるように「**神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。**」、神が望んでおられることは、私たちがこのすばらしい救い主なる神を信じ、そして、兄弟姉妹が互いに愛し合っていくこと、これが神の命令であるとみことばは教えてくれました。信仰者の皆さん、ですから、兄弟を愛することは神ご自身からあなたへの命令であるということです。そして、ヨハネが私たちにもうすでに教えてくれたことは、あなたが兄弟を愛することによってあなたはあることを証明していくのです。それは、あなたが救われているということです。

今日のテキストである4：7からご覧ください。そこには次のようなフレーズが繰り返されています。7節「**互いに愛し合ひましょう。**」、11節にも「**互いに愛し合うべきです。**」、12節「**互いに愛し合うなら、**」と、この短い箇所にヨハネは三度も同じことばを繰り返しています。主によって贖われたひとり一人、救いに与ったひとり一人のクリスチャンたちが、互いに愛し合っていくようにと言うのです。それは当然のことです。もし、一人ひとりのクリスチャンが兄弟を愛することを実践しているなら、そこには必ず、相互間に愛が生まれて来ます。ですから、ヨハネは兄弟が兄弟を愛するように、クリスチャンがクリスチャンを愛するようと言いました。そのことに初めて、この主の命令の実践を見ることができるのです。皆さん、「愛すること」をヨハネはこのように繰り返し教えていますから、私たちがもういい加減に気付かなければいけないことは、私たちが互いに愛し合うことは神ご自身がお喜びになるということです。それが神の命令である以上、それは非常に重たいものです。その責任は教会のある一部の人にあるのではなく、皆にあるのです。あなたにその責任があるのです。そのことについて実は、今日の箇所でもヨハネは教えてくれます。

ヨハネは「互いに愛し合うこと」を教えますが、それが実現可能であると言います。主によって救われたのなら、あなたは必ず兄弟を愛することができ、そして、そのような人たちの集まりの中には相互に愛があると言うのです。互いに愛し合うことが現実に群れの中に見ることができるのです。

☆「互いに愛し合うこと」は可能である

A. 愛せる理由 7-8節

7-8節「**愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。：8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。**」、7節の初めに「**愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。**」とあります。非常に興味深いことをヨハネは言います。ヨハネは「互いに愛し合ひましょう」と言いますが、その勧めの中には彼自身が含まれているのです。ですから、「**愛する者たち。**」と言います。つまり、ヨハネ自身が兄弟たちを愛していたことがここに証されているのです。彼自身も兄弟たちを愛していたのです。その上で私たち信仰者にも同じように愛し合っていくまいかと勧めるのです。なぜ、私たちはこの命令を実践することができるのか？なぜ、私たちは兄弟たちと互いに愛し合っていくことができるのか？その理由についてヨハネは私たちに教えます。7-8節に「愛せる理由」について三つのことを記しています。

1. 神の愛をいただいたから : 「愛の神」を受け入れた

7節の続きに「...愛は神から出ているのです。」とあります。ヨハネはここで「愛の起源」について、愛がどこから出て来るものかを教えています。神が愛の源であると教えます。神が愛を与えてくれると言うのです。なぜなら、神ご自身が愛だからです。8節にも「神は愛だからです。」、16節にも「神は愛です。」と教えています。つまり、愛というご性質をお持ちの方、愛がご性質である神が、その愛をあなたに与えてくれるとヨハネは教えるのです。実は、このヨハネの手紙を見ていくと、「愛」ということが頻繁に用いられています。ヨハネの手紙第一の全体を見ると、26節の中に46回も出て来ます。そして、この4章7節から5章3節までのわずか15節の中に32回も出て来ます。ですから、ヨハネは「愛」ということを非常に強調していたことが分かります。

でも、ヨハネが教える「愛」と私たちが一般的に考える「愛」は全く違うものです。なぜなら、私たち人間は他の動物と違って神に似た者として造られました。猿から進化したのではないのです。私たちは神によって造られたのです。その証拠に、私たちは神に似た者として造られたから、私たちは人を愛するのです。ですから、クリスチャンであろうとなかろうと、人を愛するということは私たち人間に与えられた一つの祝福です。しかし、ここでヨハネが言っている「愛」は、すべての人がもって生まれて来る愛のことではないのです。特別な愛です。主イエス・キリストを信じることによって救いに与った者に神が与えてくださる特別の愛のことです。愛の神によって与えられたものです。

ですから、まず最初に、互いに愛し合うことができる理由としてヨハネが教えたことは、私たちは愛の神を受け入れたゆえに、その愛をもって人を愛することができるということです。

2. 救われたから : 「父」の特徴を共有する

7節の後半に「愛のある者はみな神から生まれ、」とあります。私たちはこの地上でも、親のある特徴をもって子どもは生まれて来ます。良く似ているなあと思うところがあります。みことばが私たちに教えるようにすることは、神によって生まれた者は生んでくださった方の特徴をもって生まれて来るということです。ですから、救われた者は「父」の特徴を共有するのです。

・神は義である ⇒ 信じた者は、義を、正しいことを行なう

聖書は「神は義である」と言います。正しい方だと言います。だから、その方によって生まれた者たち、救われた者たちは正しいことを行なうと言うのです。生んでくださった方の特徴を持っていること、それによってだれによって生まれたのかを知ることができると言います。1ヨハネ2：29に「もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずですよ。」とあります。神が義なる方、神が正しい方、その神を信じたのであればあなたは義を行なうということです。あなたが義を行なうこと、つまり、正しいことを行なうことによって、あなたは義なる神によって生まれ変わったことが明らかになるとヨハネは教えています。今話したように、あなたを生んでくださった方、生まれ変わらせてくださった方の特徴をもってあなたは生まれて来るからです。確かに、聖書は「神は義なる方」だと教えています。その方によって生まれた者は義なる行ない、正しいことを行なうのです。

・神は光である ⇒ 信じた者は、光の子ども、そのように生きなさい

1ヨハネ1：5に「神は光であって、神のうちに暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。」とある通りです。神は光であって、つまり、罪が全くない清いお方であると言います。そして、その方を信じた者たちは「光の子ども」となったのです。ヨハネは福音書でもこのように言っています。ヨハネ12：36「あなたがたに光がある間に、光の子どもとなるために、光を信じなさい。」...と。また、パウロはエペソ人への手紙5：8でこのように言います。「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、」、つまり罪の中を生きていましたが「今は、主にあって、光となりまし

た。光の子どもらしく歩みなさい。」、光である神を信じた者たちは光の子どもとなったのです。その方によって生まれ変わったことは光の子どもらしく生きることによってわかるのです。聖い神を信じた者たちは聖い行ないをすることによって、光によって生まれたということが明らかになると言うのです。ヨハネはこのようにこの手紙の中で教えています。

・神は愛である ⇒ 信じた者は、愛を実践する

今日のテキストを見ると、ヨハネはこの4章で「愛」について記しています。「神は愛である」と言います。ですから、その神を信じた者たち、その神によって生まれた者たちは、当然、愛を実践する者に変えられたということを教えるのです。Ⅰヨハネ5：1「イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。」、生んでくださった方を愛する者、すなわち、神を愛する者はだれでも、その神によって生まれた者、つまり、兄弟を愛すると言うのです。愛なる神を信じた者は、その愛の実践をする者として生まれたのです。ですから、ヨハネが私たちに言うことは、兄弟を愛することができるのはあなたが救われたからだということです。

3. 救われているから 7b—8節

過去に救われたのです。そして、救われ続けているのです。そのことをこの7節の後半から8節にかけてヨハネは教えます。「愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」と、見て頂きたいのは「神を知っている」ということばです。この動詞は神に関する知識をたくさん持っているということではないことは明らかです。神を個人的に知っているということです。その方を「信じている」ということです。

ヨハネが教えようとすることは次のことです。今見たこの7節の「生まれる」と「知っている」という動詞を見て頂きたいのですが、この二つをヨハネは異なった時制で記しています。ヨハネは非常に大切なことを教えているのです。「生まれた」とは完了形です。もうすでに起こったことです。「知っている」は現在形を使っています。ヨハネは意図的にこのような異なった時制を使うことによって、次のようなメッセージを読者たちに伝えたのです。それは、あなたがたはイエス・キリストを信じた時にこの救いに与った、過去のことです。そして、その救われた結果が現在も変わることなく継続しているということです。

このことに関して、いくつかのみことばを見ましょう。Ⅰヨハネ2：3、4「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。:4 神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。」、ヨハネ7：29「わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わしたからです。」、ヨハネ8：55「けれどもあなたがたはこの方を知ってはいません。しかし、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしはあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っており、そのみことばを守っています。」、マタイ7：23「しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」

救われた者たちは兄弟を愛すること、もちろん、神を愛すること、そして、神を知ることにおいて成長を続けているのです。それが救いだと言うのです。「救い」とは、永遠の滅びから救われた、永遠の地獄から救われた、罪の束縛からその力から救われたと、それだけではないのです。神は私たちを日々変え続けてくださるのです。ですから、イエス・キリストを信じこの救いに与ったなら、—これは完了です—その時から神の働きがその信仰者のうちに始まっていくのです。どのように始まるのか？あなたはこの神を益々愛する者として成長していきます。あなたがあなたを愛してくださり救ってくださった

神のことをもっと知りたいと思い、その願いが益々増し加わっていきます。あなたはキリストを知ることにおいて成長していきます。そのようなことが継続して起こっているのです。だから、イエスを信じて救いに与った皆さんは、イエスのことをもっと知りたいという願いをもって、みことばを学んでいるのです。神によって救われたと言いながら、「神のことをもう知りたくない、もう十分知った。私のために死んでくださったのでしょうか...、よみがえったのでしょうか...、もう十分です。もうそれ以上は知りたくありません。」と、もし言うなら、それは間違いなくおかしいのです。神の救いというのは、神のわざです。神が救ったならその人を変え続けていくのです。

ですから、ここでもヨハネが言わんとしていることは、あなたは神によって生まれたなら、神はその瞬間からあなたを変える働きをする。あなたが神を知ることに関しても、あなたは継続して神を知り続けていくし、その知ることにあなたも成長し続けていくということです。これは初めて聞いた教えではなく、ヨハネはそのことを繰り返し教えています。私たちは兄弟を愛することにおいてもそうです。神を愛することにおいてもそうです。生まれ変わらされた私たちは、その時から神を愛すること、兄弟を愛することにおいて確実に成長していくのです。変えられ続けていくのです。ヨハネは「だから、あなたは救われている。あなたを変え続けていく神があなたのうちに働きを為している、そのことがあなたが救われていることの証拠である。」と言うのです。そのことが8節に記されています。「**愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。**」と。

これは明らかに7節の後半と対比しています。

・7節「**愛のある者は／愛する者**」 ⇔ 8節「**愛のない者は／愛さない者**」

・7節「**神を知っている**」 ⇔ 8節「**神はわかりません**」

「愛のある者」とは「人を愛する者」です。だから、人を愛する者は「神を知っている」と言うのです。つまり、救われているということです。それが7節に書かれています。8節には「愛のない者」、「愛さない者」ということです。日本語訳ではこのように変えられていますが、原語では同じことばを使っています。ヨハネは意図的にこのようなことばを使っているのです。ですから、愛さない者は、8節に「神はわかりません」とあります。神を知らないということです。つまり、救われていないということです。ですから、繰り返して何度も学んで来ましたが、自分は本当に救われているのかどうか？もういやという程、これでもかと言うほどヨハネはそのことを教え続けています。兄弟を愛するということ、これはあなたが救われていることの証拠である。そのような思いがないなら、あなたの信仰は本物かどうか分からないということです。

ヨハネが私たちに教えることは、私たちが兄弟を愛することができるのは、私たちが神の愛を頂き、救われ、救われ続けているからだということです。

B. 神の愛 9－11節

9節からヨハネはこの「愛」の説明をします。「お互いに愛し合ってください。兄弟を愛しなさい。」とヨハネは言いましたが、では、どのような愛をもって愛し合っていくのでしょうか？そのためにヨハネは、私たちが模範とする神の愛がどのようなものを教えてくれます。

1. 行ないの伴った愛 9節

ことばだけでなく「行ないの伴った愛」です。9節に「**神はそのひとり子を世に遣わし、**」とあります。

1) 神のひとり子イエスを遣わした

「そのひとり子」と新改訳聖書は訳していますが、これを直訳すると「神の息子をひとり」となります。敢えて、違いを明確にしたかったのですが、「そのひとり子」ということばの原語は「神の息子」のことです。そして、「ひとりの、唯一の」という形容詞を加えています。この「ひとり」とか「唯一

の」と訳せる形容詞は新約聖書の中に9回しか出て来ません。非常に興味深いことばです。その意味は「他に類のない、非常にユニークな」ということです。ですから、ヨハネはこの主イエス・キリストを指して、「彼は他に類のない存在である」と言うのです。

それだけでなく、9節をよく見てください。ここに「**神はそのひとり子を世に遣わし、**」と書かれていますが、この「ひとり」という形容詞の前に、また、「子」という名詞の前にそれぞれ定冠詞が付いています。なぜ、このようにわざわざ定冠詞を付けたのか？そこに目的があるからです。ヨハネが伝えたかったメッセージは、この他に類のない非常にユニークなこのイエス、神の息子であるこのイエス、この方がいっただれなのかを明らかにしたのです。このように定冠詞をそれぞれのところに付けることによって、「この方こそが神だ」ということ、同時に、「この方は他に存在していない独特な方である」ことを強調したのです。

ですから、この9節の中にはすごいメッセージが記されているのです。ヨハネは、神はご自分の息子をこの地上に送られたと書きました。でも、私たちが覚えなければいけないのは、この送られた息子がだれだったのか？彼は神であった、他に存在しない方であった、そのような方がこの地上に送られて来たということです。神はこのような行ないをもって愛を示してくれた、神はこのような行ないをもって、あなたは愛されているということを明らかにしたと言うのです。

2) 目的をもって遣わされた

その目的が9節に記されています。9節「**...その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。**」。これが「ひとり子を世に遣わした」目的です。この「遣わした」ということばは「使徒」と訳せます。「十二使徒」ということばの元になっていることばです。ですから、「遣わし」という動詞は「使命を負わせて任地に遣わす、派遣する、目的をもって働きに遣わす、また、だれかの代理として遣わされた」という意味を持ったことばです。ですから、ヨハネは、この主イエス・キリストは父なる神の代理としてある目的をもって、ある特別な働きのためにこの地上に送られて来たと言うのです。

では、その目的は何なのか？「いのちを得させるため」だと言います。私たち罪人に救いをもたらすためだとそのようにヨハネは教えてくれます。続いて、「**ここに、神の愛が私たちに示されたのです。**」とありますが、このことについてはこの後10節のところで見ます。ですから、なぜ主イエス・キリストがこの地上に来てくださったのか？それはイエス・キリストはあなたや私にいのちを与えるため、永遠のいのちを、罪の赦しを与えるために来てくださったと言うのです。

2. 意志の伴った愛 10節

神の愛は意志の伴ったものでした。行ないだけではありません。そこには意志を見ることが出来ます。神が自発的にこのようなことをしてくださったのです。10節に「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるので**。」と記されています。神ご自身が自発的に為されたことは、

- ・ **神が私たちを愛し、**
- ・ **御子を遣わされました。**

あなたを愛してくださって、そして、イエス・キリストを送ってくださったのです。しかも、この二つのことばはどちらも不定過去という時制です。歴史的な事実を明らかにしたのです。私たちが覚えなければいけないのは、神はもうあなたを愛してくださった、そして、その愛が本物である証拠は、今から約二千年前イエス・キリストがこの地上に来てくださったことで、その歴史上の事実によって私たちは本当に神が私を愛してくれていることを知ることができるということです。イエス・キリストがこの世にお生まれになったのは神があなたを愛していることの証拠です。そして、イエス・キリストが十字

架に掛かってあなたの身代わりとして死んでくださったのは、神があなたを愛している証拠であり、そして、あなたに永遠のいのちをもたらすために神が為してくださったみわざだったのです。このすべての愛は神が自発的に、ご自分の意志に基づいてなされたことであるとヨハネは教えてくれるのです。

3. 犠牲の伴った愛 10節

三つ目に、その愛は犠牲の伴ったものであると言います。10節の後半に「**私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」とあります。「**なだめのそなえ物**」ということばが出て来ました。これはこのそなえ物によって怒りを除こうとする、怒りを除くために供える物です。ということは、「**なだめのそなえ物**」ということばを見て私たちが覚えなければいけないことは、だれかがだれかに対して怒っているということです。みことばが教えることは、創造主なる神があなたに対して怒りを持っているということです。だから、「なだめ」が必要なのです。その怒りをなだめることが必要だと言うのです。なぜ、創造主が私たちのことを怒っておられるのでしょうか？その原因は簡単なことです。私たちの罪ではないですか？かつて、ローマ人への手紙2章で学びましたが、2：5－8にこのように書かれています。「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。：6 神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。：7 忍耐をもって善を行い、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、：8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。」。少なくとも、ここに二つの罪を見ることができます。

1) 二つの罪 : 「かたくなさ」と「悔い改めのない心」

(1) 「かたくなさ」 : 頑固さ、強情さ

神に対してかたくなだから神は怒っておられると言います。神に対して頑固であり、強情であり続けている、ですから、神は怒りを持っておられるのです。箴言28：14に「**幸いなことよ。いつも主を恐れている人は。しかし心をかたくなにする人はわざわいに陥る。**」とある通りです。

(2) 「悔い改めのない」 : 改心することのない、悔い改めない

いつまで経っても、神の前に自らの罪を告白して正しく改心しようとはしないのです。ですから、こうして見ると、神がお怒りになるのは当然です。なぜなら、神によって造られていながら造られた者たちは神に逆らい続けているからです。神がしてはならないということを平気で選択し続けているのです。神が嫌われることを平気で選択し続けているのです。

それだけではありません。神が私たちのすべてを知って備えてくださった救いに対して、それを軽蔑しているのです。「私には必要ない。私は救われる必要がありません。救いを必要とするのは別の人です。」と、神ご自身がいのちを賭けて備えてくださった救いに対して、あなたは「要りません！」と言い続けているのです。だから、神は怒っておられるのです。神が備えてくださったこの高価な完全な救いを自らの意志をもって軽蔑しているのです。それゆえに、この人はいつまで経っても罪の道を捨てようとしません。いつまで経っても神に従おうとしません。神よりも罪を愛し続けているのです。

2) 約束のさばき

このように自らの意志をもって神を拒み続けている、逆らい続けているゆえに、その人に約束されているのは永遠の神のさばきです。「**神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げている**」とローマ2：5で教えていました。「積み上げる」とは「蓄える、貯蔵する」という意味です。「宝を蓄える」という意味です。ところが、悲しい現実、宝ではなくて神の怒りを積み上げていると言います。ゆえに、神は警告されているのです。ヨハネの福音書3：36に「**御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。**」とある通りです。

神に背を向けて、神に心を閉ざし続けて、神の救いを軽蔑し、神ご自身に逆らい続けている者たちには一番ふさわしい永遠のさばきが与えられる、「**神の怒りがその上にとどまる。**」のです。永遠に…。

そのような怒りを受けて当然の私たち、なぜなら、私たちは神に逆らい続けて来たからです。でも、そんな私たちを神ご自身が愛してくださり、そんな私たちをあわれんでくださったのです。ですから、なだめのそなえ物として主イエス・キリストが来てくださり、あなたに代わってあなたの受けるべき罪のさばきを受けてくださった。ご自分のいのちをささげることによって、神の怒りをなだめてくださった、救いをもたらしてくださったのです。なぜこの方に背を向け続けるのかです。

結論

さて、ヨハネはそのことを教えた後、このように言います。11節「**愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。**」と。私たちは主イエス・キリストの愛を見て来ました。それは行ないの伴ったものでした。また、そこには犠牲が伴っていました。

・主イエス・キリストは私たちの益のために喜んで犠牲を払ってくださった

1ヨハネ3：16「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」と、「これがあなたの模範です」とヨハネは私たちに教えるのです。「兄弟を愛しなさい」と言われた。どのような愛で愛するのか？主イエス・キリストの愛を見た時に、彼は自分のことよりも人々のことを考え、彼らの益のためにご自分のすべてを犠牲にされました。そのような愛をもって愛しなさいと言うのです。

・イエスの愛は「赦し」の伴ったものであった

なぜなら、私たちが救われたからです。あなたを愛してくださっている神は、あなたに赦しを備えてくださり、その赦しを与えてくださった。だから、私たちが日々の生活において、神の前に逆らい続けて罪を犯しているとき、その罪を神の前に告白するなら神は赦し続けてくださるのです。神の愛を見る時にそこに大変な犠牲を見ます。神ご自身がいのちを捨ててくださったという犠牲です。同時に、この神の愛を見る時に、そこに「赦し」があります。私のような罪深い者を赦してくださる。主が言われることは、その赦しをもって人々を赦しなさいということです。エペソ4：32に「**お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。**」とある通りです。

これがあなたが人々に示す愛です。それは主イエス・キリストの模範に倣うことです。

C. 神の愛の実践 11節

11節「**愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。**」。ヨハネは今私たちが見て来たように、神の犠牲の伴った赦しの伴った大きな愛を教えて、その愛をあなたたちは互いに実践しなさいとこの11節で勧めるのです。「**愛し合うべきです。**」とありますが、この「べき」とは「何かをする負い目がある」という意味です。しかも、現在形です。ですから、ヨハネは「このようにしてあなたがたは互いに愛し合っていきなさい。兄弟を愛していきなさい。継続してずっと愛し続けていきなさい」と、そのように命じています。

皆さん、思い出しませんか？あるひとりの律法学者がイエスの許に来てあることを尋ねます。マルコの福音書12：28－31「**28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』31 次にはこれです。**

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」、何がたいせつな命令なのか？神を愛し、隣人を愛することだとイエスは答えられました。私たちは今、そのことをヨハネから学びました。ヨハネが教えることと同じです。あなたはどれほど大きな愛をもって神から愛されたのか、そのことを覚えるなら当然、神を愛するはずだし、神に喜ばれることをしたいと願うはずです。そして、神を愛すること、神に喜ばれることを為していくということは、自分の好きなことをするではありません。神が言われたことを実践することです。みことばに従うことです。

神の命令に従っていこうとするのです。そして、神の命令は「互いに愛し合いなさい」です。ヨハネはヨハネ2：3で「もし、**私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。**」と記しています。つまり、あなたが神の命令を守るなら、あなたはクリスチャンであることが明らかだと言うのです。その命令は「神を愛し、隣人を愛すること」です。ヨハネ4：20には「**神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。**」とあります。「神を愛する者たちは兄弟をも愛する。どうぞ、兄弟を愛する者として成長していきなさい。そのためにあなたは救われたのです。愛の神を信じ受け入れ、その方によって変えられ、愛する者として生まれ変わったのです。実践しなさい！」と言うのです。

なぜ、それが大切なのでしょう？私たちがそのことを実践する時に、つまり、神の愛を実践することによって、だれが明らかにされていきますか？考えてみてください！私たちが神の助けを頂きながら神の愛を実践するなら、私たちは間違いなく周りの人々に神の愛を明らかにするのです。神を明らかにするのです。そのために私たちは救われたのです。だから、兄弟を愛することがいかに大切かが分かります。どうぞ、信仰者の皆さん、実践し続けてください。あなたはそのような人に生まれ変わったのです。そして、神はあなたを助け続けてくださる。でも、大切なことは、あなたがそのような決心をもって今日から歩むことです。「主よ、兄弟を愛する者として私は歩んでいきたい。それにおいて成長したい！私を変えていってください。私のためではなくて、私を生まれ変わらせてくださったあなたをこの世に明らかにするためにです。」と、そのような決心を持って今日また出て行きましょう！！

《考えましょう》

1. 「兄弟を愛することができる」理由を記してください。
2. あなたがどのように兄弟を愛することを、主が望んでおられるのかをお書きください。
3. 主があなたを愛して下さった「愛」について、あなたのことばで説明してください。
4. なぜ「兄弟を愛すること」、「クリスチャンが互いに愛し合うこと」が大切なのでしょう？その理由を説明してください。